

2012年3月期 第3四半期業績概要

2012年 1月31日

アンリツ株式会社
代表取締役社長 橋本 裕一



東証第1部:6754
<http://www.anritsu.com>



注 記

本資料に記載されている、アンリツの現在の計画、戦略、確信などのうち、歴史的事実でないものは将来の業績等に関する見通しであり、リスクや不確実な要因を含んでおります。将来の業績等に関する見通しは、将来の営業活動や業績に関する説明における「計画」、「戦略」、「確信」、「見通し」、「予測」、「予想」、「可能性」やその類義語を用いたものに限定されるものではありません。実際の業績は、さまざまな要因により、これら見通しとは大きく異なる結果となりうることをご承知おきください。

実際の業績に影響を与えうる重要な要因は、アンリツの事業領域を取り巻く日本、米州、欧州、アジア等の経済情勢、アンリツの製品、サービスに対する需要動向や競争激化による価格下落圧力、激しい競争にさらされた市場の中でアンリツが引き続き顧客に受け入れられる製品、サービスを提供できる能力、為替レートなどです。

なお、業績に影響を与えうる要因はこれらに限定されるものではありません。また、法令で求められている場合を除き、アンリツは、あらたな情報、将来の事象により、将来の見通しを修正して公表する義務を負うものではありません。

目次

1. 事業概要
 2. 2012年3月期第3四半期 連結決算概要
 3. 2012年3月期 通期見通し
 4. 配当について
-





1. 事業概要 - 事業セグメントの呼称と事業内容 -

セグメント	サブセグメント	事業内容
計測	モバイル市場	LTE、3Gなどの携帯端末、チップセットの開発・製造・保守用テストなど
	ネットワーク・インフラ市場	光・デジタル・IP通信機器の開発・製造用テスト、有線および無線ネットワークの敷設・保守用テスト、サービスアシュアランスなど
	エレクトロニクス市場	無線設備、電子部品等の開発・製造用テスト、汎用テストなど
産業機械		食品・薬品・化粧品用重量選別機、異物検出機、電気機器プリント板向け精密計測など
情報通信		映像配信機器、通信機器、IPスイッチとその応用システムなど
その他		光デバイス、物流、厚生サービス、不動産賃貸など

2011年3月期 売上比率	計測 69%	産業機械 16%	情報 5%	その他 10%
モバイル 約30%	ネットワーク・インフラ 約40%	エレクトロニクス 約30%		




2. 連結決算概要 - 事業別状況(4月～12月) -

モバイル関連を中心に計測事業が順調

セグメント	2012年3月期(4月～12月)の状況	トレンド
計測	モバイル関連の計測需要が継続 ・スマートフォン向け製造用計測 ・LTE端末・チップセット向け計測	
産業機械	国内外ともに堅調	
情報通信	官公庁・民需ともに低調ぎみ	
その他	総じて堅調に推移	

注)精密計測事業は今期よりその他セグメントから産業機械セグメントに変更しています。

2. 連結決算概要 - 計測事業の状況(10月~12月) -

セグメント	2012年3月期(10月~12月)の状況	トレンド
モバイル	<p>LTE関連の計測器需要は継続</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基礎開発に加え、規格適合・相互接続試験需要 ・製造用計測需要が日本で立ち上り <p>3Gスマートフォン製造用はアジアを中心に底堅く推移</p>	
ネットワーク・インフラ	<p>無線系:各地域で堅調なもの、米国政府需要は一巡</p> <p>有線系:高速化に向けた開発需要が堅調</p>	
エレクトロニクス	<p>無線系モジュール:日本等で計測需要が堅調</p> <p>欧米の需要は現地通貨ベースで堅調</p>	

2. 連結決算概要 – 第3四半期業績サマリー –

大幅な増収増益

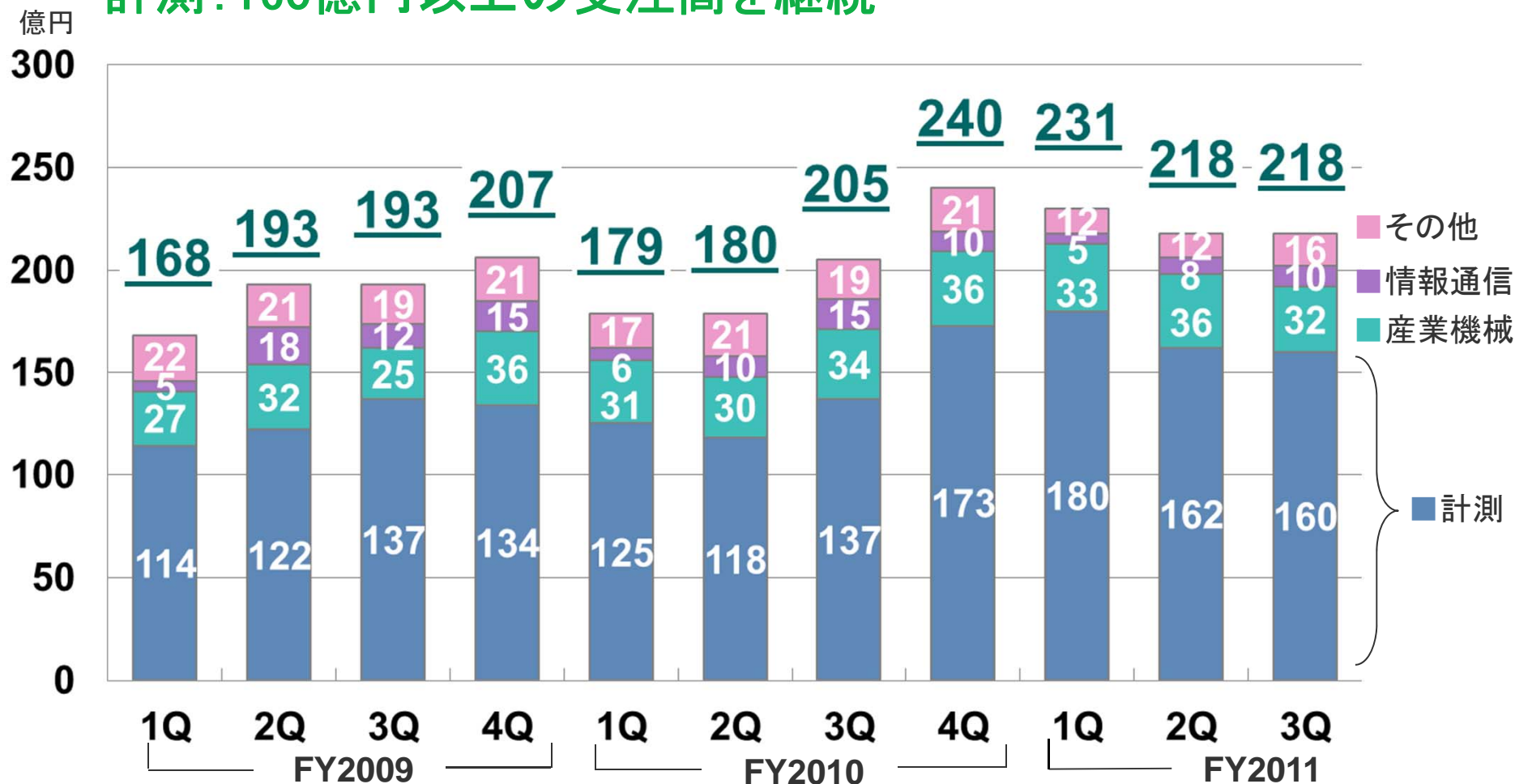
(単位: 億円)

	前第3四半期 連結累計期間 (4-12月)実績	当第3四半期 連結累計期間 (4-12月)実績	前年同期比 増減額	前年同期比 増減率(%)
受注高	563	667	104	18%
売上高	539	660	121	22%
営業利益	43	101	58	135%
経常利益	29	90	61	210%
税引前当期純利益	28	90	62	217%
当期純利益	22	60	38	172%
フリーキャッシュフロー	66	99	33	50%

(注) 値はそれぞれの欄で四捨五入

2. 連結決算概要 - 受注高推移 -

計測: 160億円以上の受注高を継続



(注) 値はそれぞれの欄で四捨五入

2. 連結決算概要 - 事業別売上高・営業利益 -

計測事業がけん引

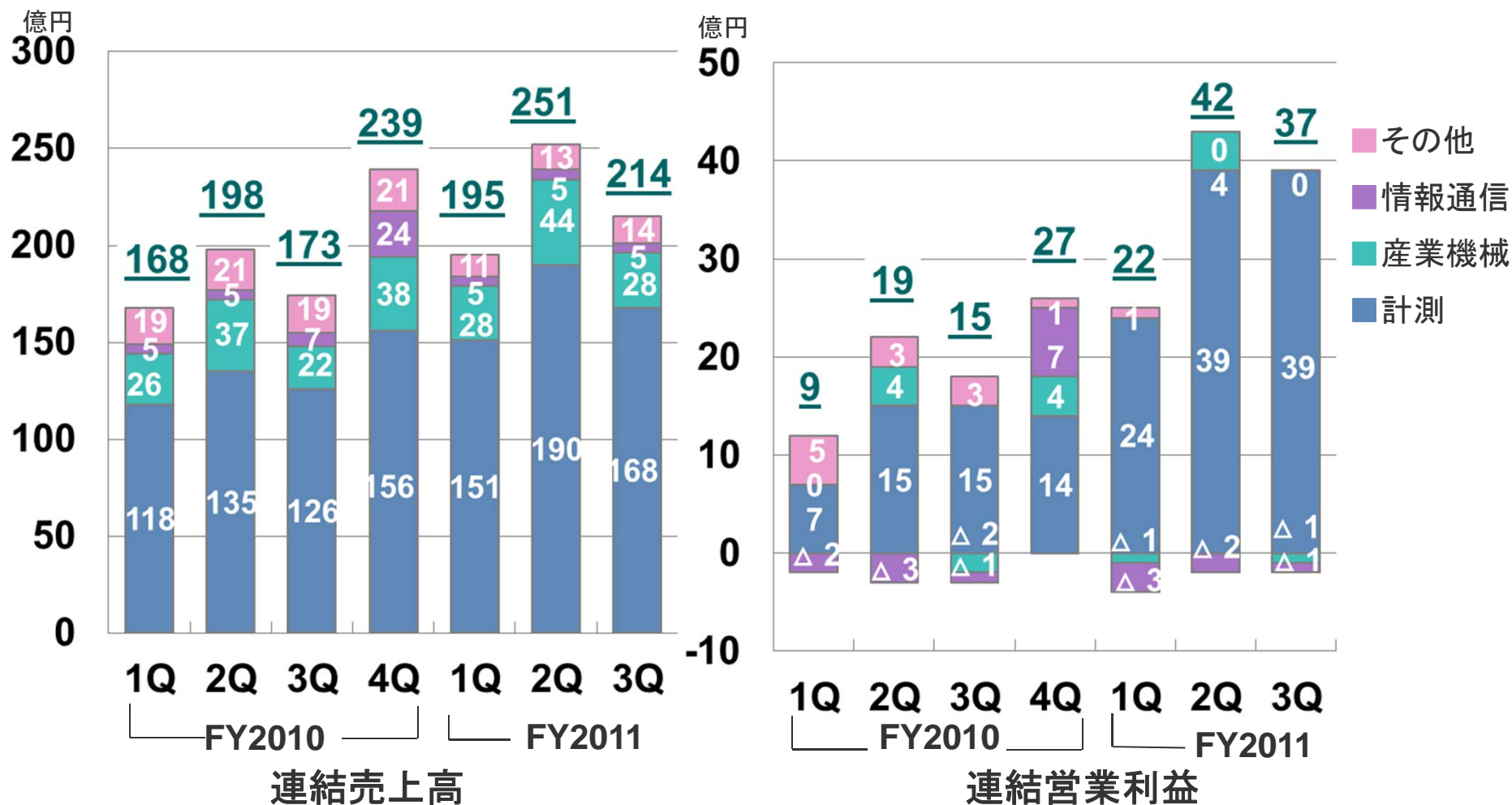
(単位: 億円)

		前第3四半期 連結累計期間 (4-12月)実績	当第3四半期 連結累計期間 (4-12月)実績	前年同期比 増減額	前年同期比 増減率(%)
計測	売上高	379	508	129	34%
	営業利益	36	102	66	182%
産業機械	売上高	85	99	14	17%
	営業利益	2	3	1	11%
情報通信	売上高	17	15	△ 2	△11%
	営業利益	△6	△6	0	-
その他 (含: 内部消去)	売上高	59	38	△ 21	△35%
	営業利益	11	2	△ 9	△81%
合計	売上高	539	660	121	22%
	営業利益	43	101	58	135%

(注) 値はそれぞれの欄で四捨五入

2. 連結決算概要 - 四半期毎 売上高・営業損益 -

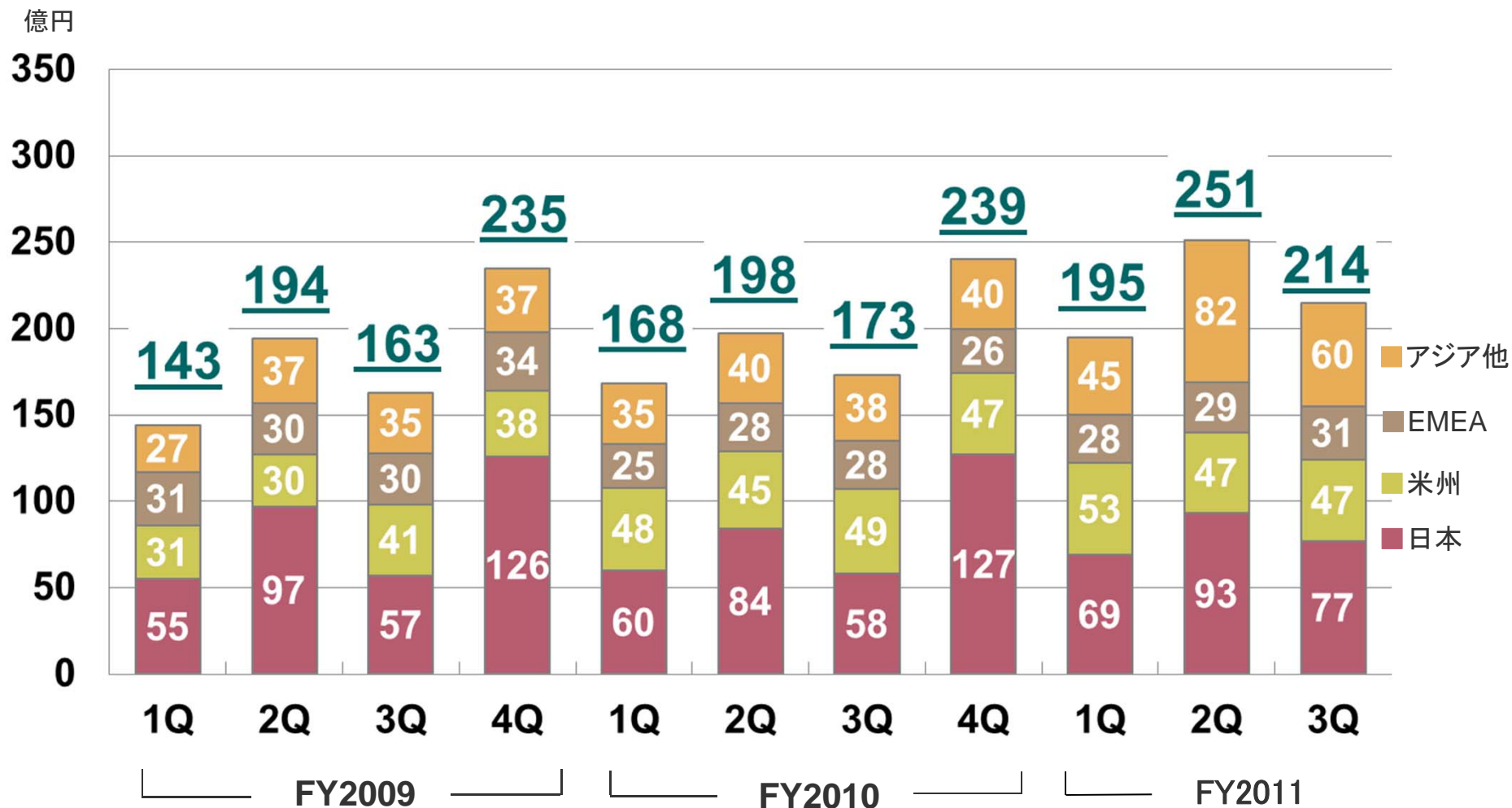
連結営業利益率: 15%以上を継続



(注) 値はそれぞれの欄で四捨五入

2. 連結決算概要 - 地域別売上高推移 -

現地通貨ベースで各地域ともに堅調



(注) 値はそれぞれの欄で四捨五入

2. 連結決算概要 - 営業外・特別損益 -

(単位:百万円)

	前第3四半期 連結累計期間 (4-12月)実績	当第3四半期 連結累計期間 (4-12月)実績	当第3四半期 連結会計期間 (10-12月)実績
営業利益	4,311	10,129	3,736
金融収支	△ 444	△ 308	△ 101
為替差損益	△ 843	△ 744	△ 37
その他	△ 108	△ 48	11
営業外損益計	△ 1,395	△ 1,100	△ 126
経常利益	2,916	9,029	3,610
投資有価証券売却益	-	10	0
投資有価証券売却損	-	△ 20	-
資産除去債務会計基準の 適用に伴う影響額	△ 68	-	-
投資有価証券評価損	△ 1	-	-
特別損益計	△ 69	△ 9	0
税引前利益	2,847	9,020	3,611

(注)値はそれぞれの欄で四捨五入

2. 連結決算概要 - キャッシュフロー -

内訳

単位: 億円 △減少

着実にキャッシュフローを創出

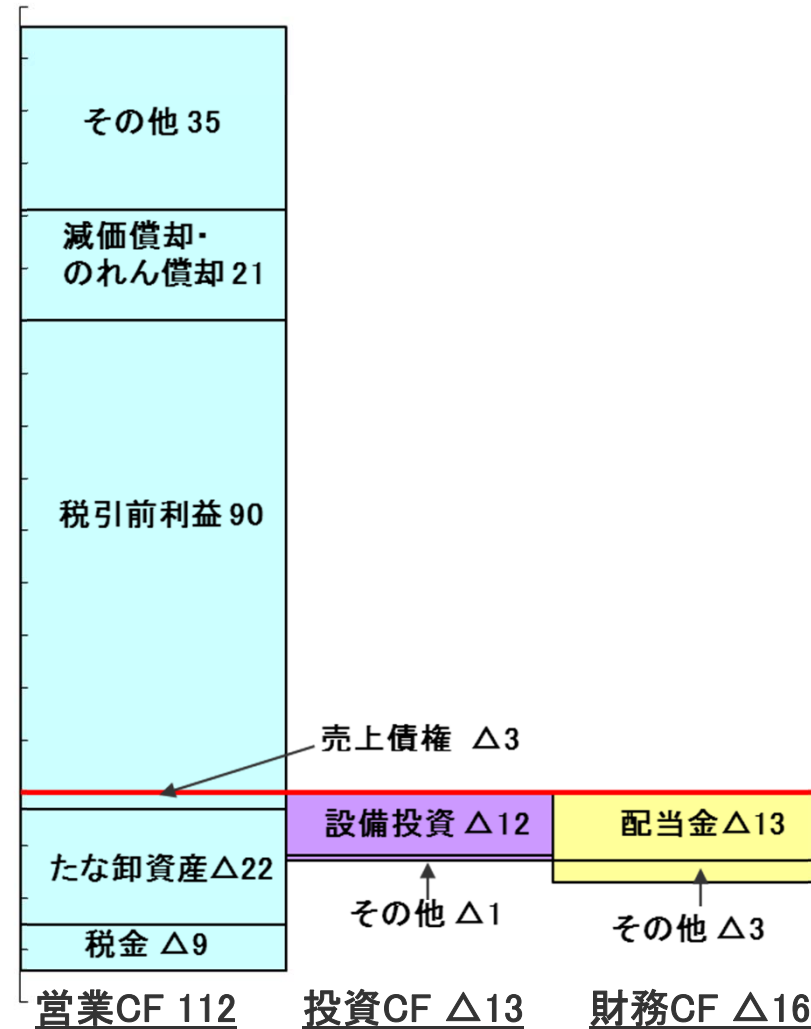
第3四半期累計

- ①営業CF: 112億円
- ②投資CF: △13億円
- ③財務CF: △16億円

フリーキャッシュフロー
(①+②): 99億円

現金同等物期末残高
356億円

(注) 値はそれぞれの欄で四捨五入



3. 2012年3月期 通期の見通し(連結)

計測事業を上方修正

(単位：億円)

		2012/3期			2011/3期実績との比較		前回発表 通期予想 (2011.10.27)
		上期 実績	下期 予想	通期 予想	増減額	増減率(%)	
売上高		446	469	915	136	18%	875
営業利益		64	78	142	72	103%	117
経常利益		54	71	125	71	133%	100
当期純利益		38	57	95	64	210%	70
計測	売上高	340	340	680	145	27%	640
	営業利益	64	66	130	79	157%	105
産業機械	売上高	72	68	140	17	14%	140
	営業利益	3	4	7	0	6%	7
情報通信	売上高	10	30	40	△ 1	△ 3%	40
	営業利益	△ 5	5	0	△ 1	-	0
その他	売上高	24	31	55	△ 24	△ 31%	55
	営業利益	2	3	5	△ 7	△ 59%	5

(参考) 想定為替レート：1米ドル=80円
1ユーロ=110円

(注) 値はそれぞれの欄で四捨五入

2012/3月期から産業機械事業に、その他セグメントの精密計測事業を統合しています。

4. 配当について

年間配当：増配

10円 → 15円（中間配当5円、期末配当10円）

配当方針

株主の皆さまへの利益還元策として、連結当期純利益の水準に応じて、連結純資産配当率(DOE)を上昇させることを基本に、事業環境などの諸般の事情を総合的に考慮して決定しています。

Anritsu

Discover What's Possible™